

## 活動計画書 / 活動実施計画書

団体名： 星崎学区連絡協議会

### 1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

C-1（防災・減災）、F-3（都市魅力）

### 2 活動地域の特性、現況、課題

- ◆ 笠寺台地の南に位置し、天白川の氾濫平野、砂洲で構成された大部分が海拔1m前後であり、河川氾濫高潮のリスクが高い地域で、伊勢湾台風（1959）、東海豪雨（2000）など度重なる浸水被害に見舞われている。
- ◆ また、住民の高齢化の進展（25.8%）、町内会推挙加入率（65.9%）の低下により、コミュニティの希薄化と併せ、災害発生時の避難行動の困難性の増加により、地域ぐるみで安全確実な避難等の防災行動が求められる。
- ◆ こうした潜在的なリスクに加え、令和5年度に実施した「住民意識調査」から、スーパーの減少による買い物等の日常生活に不安を感じる住民の増加など、新たな課題も浮き彫りになったところである。

### 3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

- ◆ 地域活性化と防災力向上を目指して、防火防犯パトロール、運動会、地区清掃などに併せた、防災教室を実施しているほか、e コミマップ、ラジオドラマコンテストなど地域活性化に取り組んできた。
- ◆ 2011 年東日本大震災の甚大な被害を目の当たりにして、自助、共助の重要性の観点に立ち、地域の地震防災対策を進めるために、名古屋市で最初に「星崎学区地区防災計画（地震対策編）」を作成（2017）した。
- ◆ 令和5年度には、地域まちづくり活動助成（構想づくり活動助成）を受け、住民意識調査、伊勢湾台風災害教訓エスノグラフィーの作成、防災を切口とした地域を構成する多様な主体との連携についても活動の幅を拡大している。

### 4 助成を受けようとする活動の目的

- ◆ 昨年度の活動で、地域防災力のさらなる強化を進める土壌を確認できた一方、「避難のタイミングの理解不足」、要配慮者に対する支援では「自分のことで精一杯」「支援の必要な人が分からない」といった課題が明らかになった。さらに、地域活動に関して「より積極的な広報」「より多くの住民、世代が気軽に集まる雰囲気づくり」「若い世代の活躍の場づくり」など意見を踏まえ、活動を地域内でも広く発信・共有するとともに、より参加しやすい、参加したくなるような取組みを増やしていくことが必要と考える。
- ◆ 地域の持続的な活性化のためには、住民だけでなく地域を構成するあらゆる主体を巻き込んで、地域が抱える課題の共有、解決策の検討などを行うことで、課題解決に向けた先進的な取組みにもチャレンジし、「持続可能で活力ある地域まちづくり構想」作り上げていくことを目指したい。

### 5 活動による今年度の成果目標

- ◆ 地域を取組みを広く発信、共有するために、デジタルコンテンツによる情報発信力（体制）を強化する（ウェブサイト（Facebook）の構築、回覧板の充実等）。
- ◆ 防災に関して昨年度の取組みをさらにステップアップし「防災知識」「情報」「避難」の3つのリテラシーの強化を図り、「地区防災計画（風水害編）」の道筋（わか家のタイムライン、安否確認等の達成度などの評価指標の取入れ）をつくる。
- ◆ 地域防災まちづくりをけん引、持続させるためにファシリテーターを育成する

- ◆ 地域のあらゆる主体が気軽に集まれる雰囲気づくりに重点を置いた防災フェスティバル(運動会等)によって、地域の行事に新たな参画する者を増やす。
- ◆ 地域が防災を芯に据えたまちづくりを実現するため「日ごろのふれあいから顔の見える関係づくり」や「仲間を増やす取組みの強化」を主眼に、様々な行事を展開することで、その骨格作りを進める。

## 6 助成を受けようとする今年度の活動内容

- ◆ 地域活動の情報発信力の強化及び情報リテラシーの向上(ウェブサイトの構築、同利活用講習会開催)
- ◆ 防災を切口とした地域防災まちづくりの活性化(防災フェスティバル、まちなか防災クイズラリー)の実施
- ◆ タイムライン型避難計画を作成していく過程において、災害時に命を守る避難をテーマにした地区防災計画作成(2年程度で作成)に向けたWSの開催
- ◆ 多様な主体が参加した地域課題解決策を考える地域会議(仮称)の開催

## 7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

- ◆ 有識者(三重大学 川口 淳 教授)
- ◆ 支援者(名古屋大学 あいち・なごや強靱化共創センター)
- ◆ 行政(区役所、消防署、消防団、警察署)
- ◆ 社会福祉施設、社会福祉協議会、障害者団体
- ◆ 町内会、民生・児童委員等
- ◆ 地区内事業所等

## 8 今年度の活動内容のスケジュール

| 年 月      | 活 動 内 容                                   |
|----------|-------------------------------------------|
| 令和6年4月   | 防災安心まちづくり委員会年間事業計画決定(キックオフ)               |
| 4月       | 防災フェスティバル実行委員会(仮称)設置                      |
| 5月～      | タイムライン型地区防災計画WS(6回程度)(～2月)                |
| 6月～      | 防災意識啓発・災害図上訓練(DIG)(～11月)                  |
| 7月～      | 情報発信力強化に係るウェブサイトの構築(委託)                   |
| 8月～      | ウェブサイト取扱い・利活用講習会(委託)(3回)                  |
| 8月～      | 地域会議の開催(5回程度)(～2月)                        |
| 10月10日頃  | まちなか防災クイズラリー(～10月末)                       |
| 10月20日   | 防災フェスティバル                                 |
| 12月1日    | 防災訓練(検証訓練)                                |
| ※毎月第1土曜日 | 運営会議(コア会議)(事業所連携、WS運営等について有識者等との検討・助言の場合) |
| ※隔月最終土曜日 | 防災安心まちづくり委員会                              |

## 9（構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと以後の展望

これまでの取り組みを通じて把握した課題を地域で解決し、地域の活性化とともに、持続可能で災害に強いまちづくりの構想を創り上げていくためには、地域を構成する多様な主体が連携できる体制が重要と考え、令和6年度、それを支える基礎的部分の仕組みづくりを行っていくこととし、次の3つの項目について進めていく。

### 【①情報発信力を高め、気軽に集まれる場づくり】

- ◆ 町内会加入率が低下する中においては、従前の情報発信手段(回覧板)に加え、双方向性、即時性、映像等の多角性に適したウェブサイトを構築し、情報発信力と参加性を高めるとともに、従前の回覧板についても見やすい形を工夫していく。そのために、学区に広報を担う体制を整える。
- ◆ 併せて、地域全体をステージにして、子供が参加したくなり、一緒に大人も参加でき、楽しみながら防災を学ぶ取り組みを行う。

### 【②防災リテラシーの向上及び地区防災計画作成】

- ◆ 高めるべき3つのリテラシー(防災知識、情報・判断、避難生活力)について、令和6年元日に発生した能登半島地震の最新の知見を踏まえ、星崎学区における災害事象、命を守るために今、地域で備えておくべきことを、皆で考え、共有し、その成果を地区防災計画作成の道筋とする。
- ◆ 地区防災計画には、達成すべき指標を示すことで、継続的に計画に関わっていくような形として成文化する。
- ◆ また、次代を担う人材を育てるために、まちづくりやWS実施ファシリテーターの育成について、並行して行っていく。

### 【③地域の課題解決に向けた地域会議の開催】

- ◆ 令和5年度に実施した「住民意識調査」で得られたこの地域の課題について、地域を構成する多様な主体の参画を得て、ともに考え、議論し、解決に向けた意見、アイデアを結集できる場を構築し、まずは共通の課題となり得る『地域防災』を切口として取り組んでいく。

### 【次年度以降に取り組んでいくこと】

- ◆ 上記の取り組みを継続的に実施していくことで地域の取り組みへの参加意識が生まれることを期待し、その持続可能な運営体制も模索しながら、組織全体の体力をさらに高めていきたい。
- ◆ 特に、地域会議において、この地区が抱える課題解決のためのアイデアや取り組みを生み出し、それを積極的かつ主体的に具体化することで、地域が一体となった、防災を切り口とした『星崎学区まちづくり構想』としていきたい。
- ◆ 地域の共通課題である防災をベースに、星崎学区を構成するあらゆる主体が街づくりに加わり、自らが主体となって課題を解決できる体制づくりを実現する『星崎学区まちづくり構想』を作り上げていく。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、3ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。